



## 平成22年産水稻の8月15日現在における作柄概況（滋賀県）

### － 作柄は平年並みの見込み －

#### 【調査結果の概要】

- 1 8月15日現在における水稻の作柄は、「平年並み」が見込まれる。
- 2 作柄表示地帯別には、湖南、湖北ともに「平年並み」が見込まれる。

#### 作柄表示地帯別にみた作柄概況



○ 作柄表示地帯とは、地域行政上必要な水稻の作柄を表示する区域として、都道府県を水稻の生産力（地域、気象、栽培品種等）により分割したものである。

- この統計調査結果は、以下のアドレスからご覧いただけます。  
【 <http://www.maff.go.jp/kinki/toukei/mn/sakutuke/index.html> 】  
この統計調査における調査の目的、調査の対象等は、【調査の仕様】（P4）に掲載しています。

## 【解 説】

### 1 生育・作柄概況

- (1) 田植最盛期は、平年に比べ1日遅い5月10日となった。
- (2) 田植後の生育は、5月中・下旬の低温により分けつは抑制され、緩慢であった。
- (3) 出穂最盛期は、平年並みの8月3日となった。
- (4) 穂数は、分けつが抑制され茎数が少なかったことから、「少ない」と見込まれる。
- (5) 1穂当たりもみ数は、穂数が少ないことによる補償作用及び幼穂形成期がおおむね天候に恵まれたことから、「多い」と見込まれる。
- (6) 全もみ数は、「平年並み」が見込まれる。
- (7) 登熟は、出穂後、高温多照で経過しているが、1穂当たりもみ数が多いこと等から「平年並み」が見込まれる。
- (8) これらのことから、8月15日現在の作柄は「平年並み」が見込まれる。  
作柄表示地帯別には、湖南、湖北ともに「平年並み」が見込まれる。

### 2 被害状況

被害は、「平年並み」が見込まれる。

## 【統計表】

### 1 平成22年産水稻の田植え及び出穂の状況（8月15日現在）

区 分	田 植 期						出 穂 期				出 穂 済 面積割合 %
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の比較		始 期	最盛期	最盛期の比較			
				対平年	対前年			対平年	対前年		
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日		
滋 賀 県	5. 3	5. 10	5. 26	1日遅	2日遅	7. 29	8. 3	並み	1日遅	87	
湖 南	5. 2	5. 10	5. 25	2日遅	2日遅	7. 29	8. 3	並み	1日遅	87	
湖 北	5. 4	5. 10	5. 26	1日遅	2日遅	7. 26	8. 3	並み	1日遅	86	

注：田植期及び出穂期の始期、最盛期、終期とは、田植え及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日である。

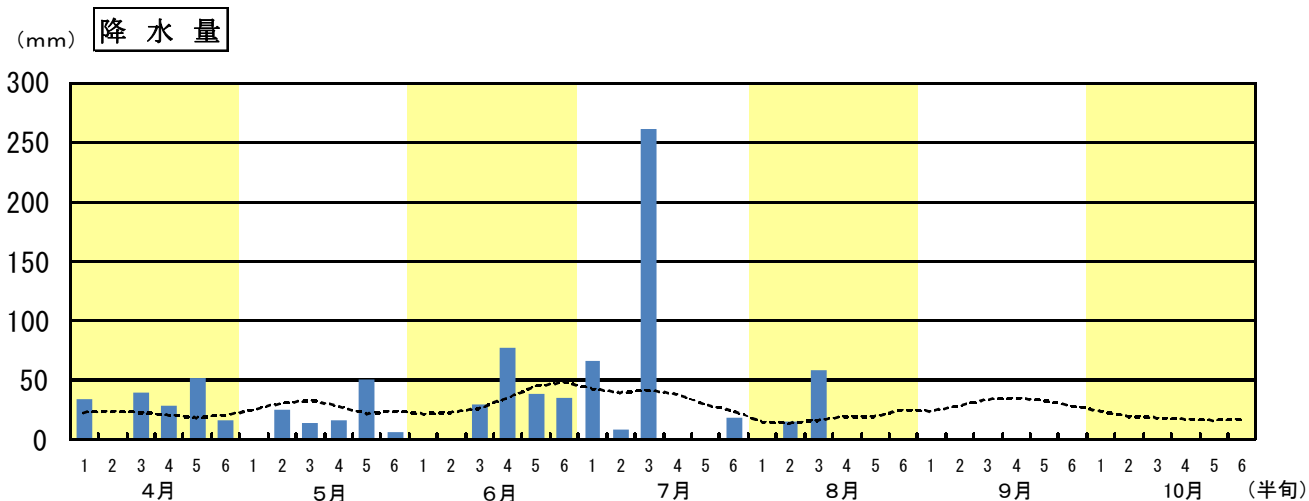
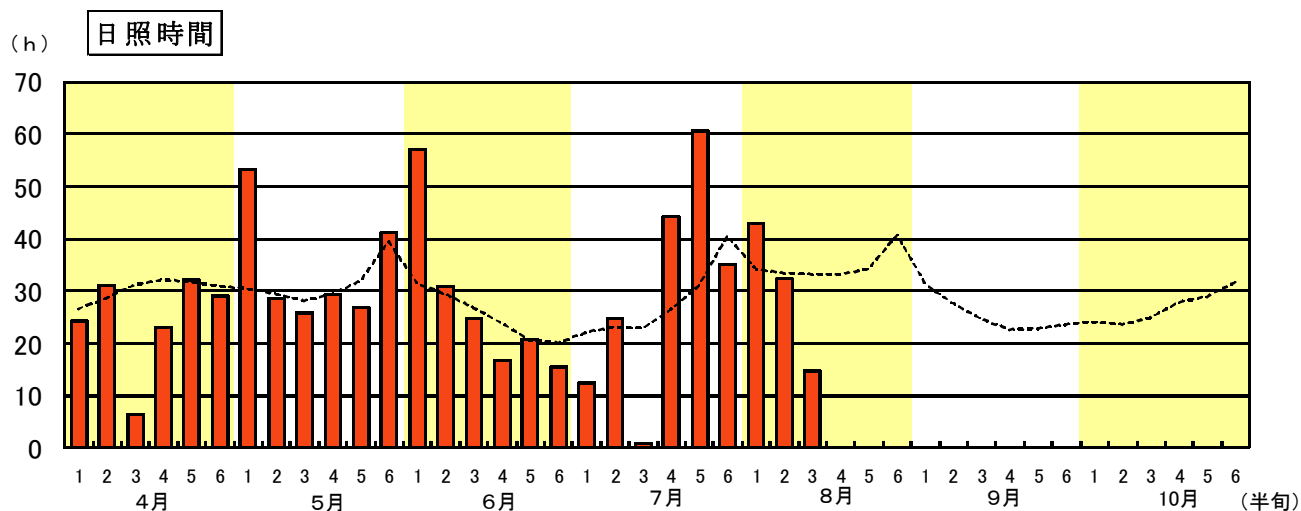
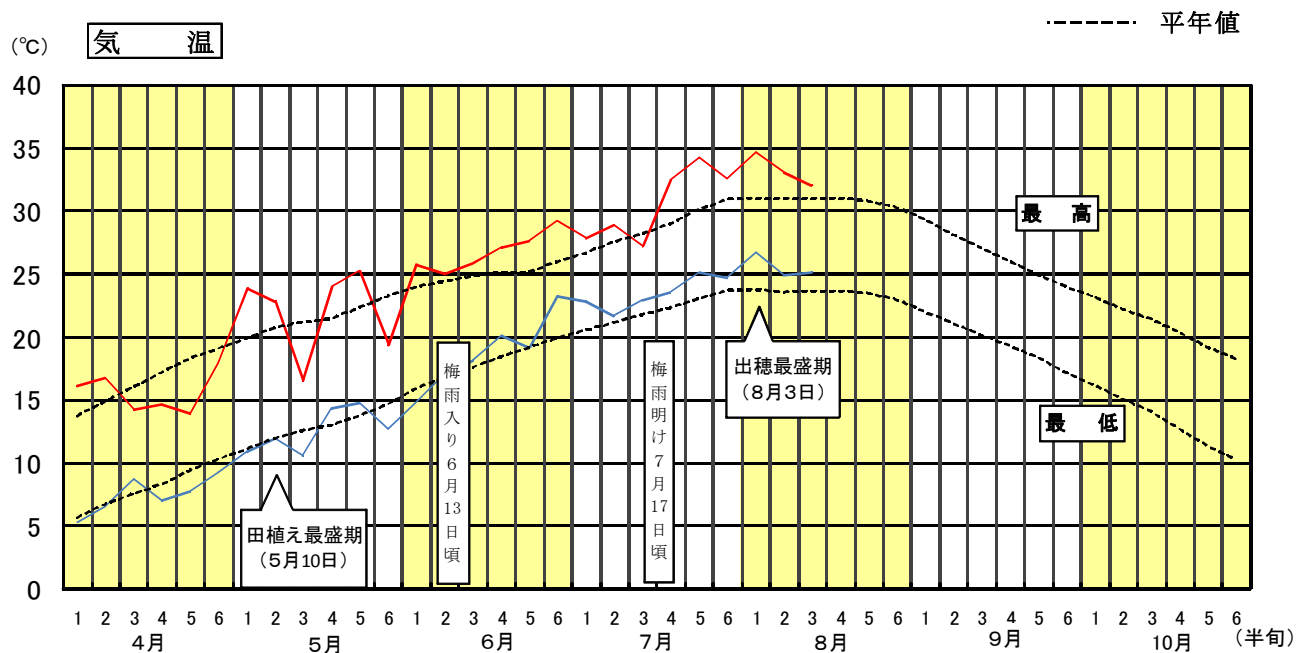
### 2 平成22年産水稻の作柄概況（8月15日現在）

区 分	作柄の 良 否	穂数の 多 少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数 の 多 少	登熟の 良 否
		( 平 年 比 較 )			
滋 賀 県	平年並み	少ない	多い	平年並み	平年並み
湖 南	平年並み	少ない	多い	平年並み	平年並み
湖 北	平年並み	少ない	多い	平年並み	平年並み

注：1 本表で用いた作柄の良否の表示区分は、「良」が作況指数106以上、「やや良」が同102～105、「平年並み」が同99～101、「やや不良」が同95～98、「不良」が同94以下である。

注：2 本表で「穂数の多少」、「1穂当たりもみ数の多少」、「全もみ数の多少」、「登熟の良否」に用いた表示区分は、「多い（良）」が平年対比106%以上、「やや多い（やや良）」が同102～105%、「平年並み」が同99～101%、「やや少ない（やや不良）」が同95～98%、「少ない（不良）」が同94%以下である。

【参考】 平成22年産水稻生育期間の気象（彦根アメダス値）



## 【調査の仕様】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稲調査の中の作柄概況調査として実施し、水稲の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、技術指導等の農林水産行政推進のための基礎資料とすることを目的としている。

### 2 調査期日

作柄概況調査 8月15日現在

### 3 調査方法

調査は、作況標本筆、作況基準筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行った。

### 4 調査客体数

作況標本筆:210筆 基準筆:8筆 巡回・見積り:19市町

### 5 用語の解説

- 「穂数の多少」とは、1㎡当りに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- 「1穂当たりもみ数の多少」とは、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表している。
- 「登熟の良否」とは、登熟(開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実)が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表している。
- 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較である。

### 6 利用上の注意

本調査(8月15日現在)は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行った。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがある。

#### 問い合わせ先

◎ 本統計調査結果について

連絡先： 近畿農政局滋賀農政事務所  
統計部生産流通消費統計課

電話： (代表) 077-522-4261  
内線 445

◎ 農林水産統計全般について

連絡先： 同事務所  
統計部統計企画課

電話： (代表) 077-522-4261  
内線 422